

異文化探訪レポート 1

三輪 悟氏の「結婚」の報告

突然ではありますが、2005年7月結婚致しました。
以下、簡略にご報告致します。

日時：2005年7月16日(土)、17日(日)

場所：カンボジア王国、タケオ州キリボン(新婦実家)



新婦：ドック・ベア (DUK Ber) (1980年8月16日生)

6人兄弟の3人目(次女)として、ベトナム国境のキリボン(プノンペン南方120km)に生まれ育つ。父(1943年生)・母(1947年生)とも健在。2000年雨季に初めてシエムリアップを訪れる。2004年4月頃より石工頭の家で借家し、三輪と知合う。現在無職。クメール料理が得意。

新郎：三輪 悟 (MIWA Satoru) (1974年1月17日生)

男3人兄弟の次男として、東京都江戸川区小岩に生まれ育つ。実家は銭湯「竹の湯」(先代が昭和34年創業)を営む。都立両国高校を卒業し、一浪の後日本大学理工学部建築学科に入学。1996年4月より建築史建築論(片桐)研究室に入り1997年上智大学アンコール遺跡国際調査団初参加。1999年3月日本大学大学院修士課程修了。同年5月より現地に長期滞在を始め今日に至る。アンコール・ワット西参道の保存修復工事の現地責任者を務める。

挙式：雨期とは違って変わった乾期の青空の下、式は新婦実家で行われた。今回、当初よりカンボジア式、新婦の家族の意向を重視して日本側は最大限合わせるように努力した。日本より父(1942年生)兄、弟、従兄弟、そして11名の仲間(夫婦2組を含む)ら計15名を迎えることが出来た。

アンコール遺跡国際調査団関係者は、遠地のため原則として招待はしないと決めた。日頃一緒にいる建築家や石工も招待したかったが、現実問題として難しい。と言って、そのうちから何人かを選ぶとなると、基準を設けることも難しいというのが本音であった。



例外として、ソパート氏（上智大学アンコール国際調査団の建築班運転手兼事務）には結婚式の2日前の7月14日から小生に同行してくれるようお願いした。阿部千依さん（上智大学修士課程、2005年3月より現地に滞在し、センター業務補助のかたわらニャックターの研究を進めている）にも、結婚式の7月16、17日は土曜日・日曜日だったので、小生の父母兄妹をふくめ不案内な日本人の全般的な手助けをお願いした。また佐藤佳子さん（1989年にカンボジアに初渡航し、現在プノンペン大学在学中）には、初めて海外旅行をする父のガイドをお願いした。

さらに日本人として、日本大学の先輩で、カンボジア人のサラさんと1999年に結婚し、子供さんももうけ、上智大学アンコール国際調査団の建築アドバイザーも兼ねている古山康行さんが、シェムリアップから片道約430kmの場所にもかかわらず、ご自分で車を運転して駆け付けてきてくれて、小生は大いに感激した。同時に、小生がやってくることにやや懐疑的で、ましてカンボジア人との結婚には躊躇していた父に、そういう先輩を紹介することができたのは、何よりも嬉しいことであった。

7月16日の土曜日は前夜祭のようなものである。夕刻にちょっとした儀式を行った後、夜10時まで友人らと踊った。翌17日の日曜日は、正式の儀式の日である。朝3時から化粧を始め、7時から儀式が始まり、それが昼まで続いた。昼食の後、車に乗って写真撮影に向かった。夕方には父や兄弟などを含め日本人の人たちはプノンペンやシェムリアップに戻った。

その後、17日の午後4時から本格的なカンボジア式の結婚披露宴が始まった。日本人を除く、約500人の招待客に挨拶し、合掌して回った。ベトナム国境沿いという土地柄だろう、ベトナム人の非常に多かったのが印象に残っている。事実、数km先の国境を越えてやってきた、かなりの人数のベトナム人招待客がいた。家の外では夜10時過ぎまで踊りが続いていたようだが、私は、しこたま飲んでいたので、いつだか定かではないが寝てしまった。

翌7月18日月曜日の午前中は頭痛で寝込んでしまった。それでも夜には、ともかく父のいるプノンペンまで辿り着いたのだが、父の日本帰国を見送ることは出来なかった。その後、職場である上智大学アンコール遺跡国際調査団の拠点のシェムリアップには、新妻とともに20日に戻った。

ハードスケジュールだったため数名の友人らが疲労で寝込んだり、日本に戻るため手配したベトナム航空機が飛ばなくなったりなどのハプニングもあったが、7月21日朝には、日本からの参加者全員の無事帰着を確認し、カンボジアでの結婚式出席の御礼かたがた、すべてが無事に終了し、これからカンボジア国内法に基づく手続きを行い、日本大使館にも婚姻届など関係書類を提出することなどを報告した。

謝辞：今回、小生がカンボジア人女性とカンボジアで結婚式を無事にできたのは、必要とされる煩雑な手続きを処理していただいた在カンボジア日本大使館、何度もの変更に快く対応していただいた日本の旅行エージェント会社など、多くの方々のご支援・ご協力のお陰です。改めて、御礼申し上げます。

なお、これを機会に、今後、「新アンコール現地レポート」を「異文化探訪レポート」と題し、小生を含め、関係者で定期的にお送りいたしますので、ご期待ねがいます。

2006年3月13日

シェムリアップ、上智大学アジア人材養成研究センターにて

三輪 悟